

たねニュース

平成29年(2017年)1月1日発行(隔月1回1日発行)

- 新年ご挨拶
- 北海道向けサイレージ用トウモロコシ品種選定のポイント
- 第68回日本酪農研究会神戸市にて開催
- アメリカ酪農視察研修レポート
- 道央支店より新年のご挨拶 ● 道東支店より新年ご挨拶

謹賀新年

平成29年の新春を迎え、皆様におかれましては健やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また日頃より弊社事業につきましては特段のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、日本の酪農・畜産業界を取り巻く環境はご周知の通り、平成27年秋にTPP（環太平洋パートナーシップ協定）の大筋合意、平成28年秋に批准承認となりましたが、新しいアメリカ大統領によるTPP離脱の方針が表明され、今後の推移が読み切れない状況でございます。そして国政の農政改革の動きが具現化されてきており、これからの日本の農業について様々な意見が繰り広げられ注視していく必要があります。このような大きな転換期を迎えた中で、豊作により海外穀物相場は軟調なもの依然として高止まりする飼料価格で推移しております。また生産者の皆様の高齢化・後継者不足による離農や廃業に歯止めがかからない状況において、生産基盤の脆弱化と地域コミュニティーの存続にそれぞれの地域が課題に立ち向かっておられる事と敬拝いたします。

昨年は北海道に大きな気象災害が発生しました。春以降の天候不順の中、1番牧草もなかなか思い通り作業が進捗しない状況下で、お

盆過ぎに北海道に上陸した3つの台風による被害があり、更に8月末でも台風が北海道へ接近し、多大な被害が富良野・十勝中心に起きました。被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。8月の北海道の台風襲来は、従来の気象災害からは想定できない事であり、世界を取り巻く気象の大きな変化に対し、自然環境への保護の重要性を感じています。

農業は自然環境があってこそその産業であり、弊社は先達である黒澤西藏翁が提唱した「健土健民」を創業の精神とし、社是である「農業奉公」のもと創業以来一貫して循環型農業を推進し、地域に適した牧草・飼料作物種子、緑肥作物種子の新品種開発、お客様のニーズに応える製商品・生産技術の開発に取り組んでおります。

本年も、雪印メグミルクグループの一員として、酪農・畜産の生産現場で数多くの商品と技術を取り揃え、お客様のお声に応えられる様努めてまいります。

今後とも、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

平成29年元旦

雪印種苗株式会社
代表取締役社長 赤石 真人